

2024年3月17日 (第218号)
発行所 カトリック大阪高松大司教区 教区報西部版担当
〒760-0074 高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484
Email
四国カトリック会館:
catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.jp
広報:tk-koho@mxi.netwave.or.jp
WEB https://ostk.catholic.jp/

カトリック 大阪高松教区報 西部版

マザー・テレサの言葉
貧困と戦うのは、むずかしい。
でも、食べものへの飢えより愛への飢えを鎮めることのほうが、もっとむずかしいのです。

高松教区報最終号

「愛読ありがとうございます」

1970年1月に「四国信徒だより」として創刊された高松教区報は、本号をもって最終号となり、2024年4月以降は旧大阪教区報(大阪時報)と統一されて、新しく大阪高松教区報が発行されます。

05年からは年6回奇数月の発行を続け、昨年11月(216号)からは大阪高松教区報西部版となり、創刊から50年余りの間、歴代司教のことば、様々な行事や活動、典礼に関する記事などを教区内の皆様にお届けしてきました。

この間、2002年にはB5版からA4版への紙面大型化と文字の大型化、2009年にはさらに大きくA3版力率として読みやすい紙面作りを目指しました。印刷は2019年に白黒印刷に戻り、現在に至っています。また、1997年頃からは編集作業



高松教区報
バックナンバー
(105~215)

「四国信徒だより」は、当初年4回発行され、1974年から年6回奇数月の発行になった後、1995年1月(82号)からは「高松教区報」と名称を変えました。ときには1年に1回しか発行できないピンチの年もありましたが、20

05年からは年6回奇数月の発行を続け、昨年11月(216号)からは大阪高松教区報西部版となり、創刊から50年余りの間、歴代司教のことば、様々な行事や活動、典礼に関する記事などを教区内の皆様にお届けしてきました。

この間、2002年にはB5版からA4版への紙面大型化と文字の大型化、2009年にはさらに大きくA3版力率として読みやすい紙面作りを目指しました。印刷は2019年に白黒印刷に戻り、現在に至っています。また、1997年頃からは編集作業

歴史そのものです。よりよい紙面作りのために、四国内5つの地区でそれぞれ広報委員を選任していただき、情報提供や校正への協力をお願いしてきました。近年は、地区長、地区議長の皆様にもメールを利用して情報共有しています。この場を借りて感謝申し上げます。

旧高松教区広報委員長
桜町教会信徒 長谷川聖

ます。教区報は、4月以降、大阪高松教区報として毎月発行されます。昨年11月号で募集した新教区報ロゴも選定され、4月号発行の準備中です。新教区報は大阪時報の構成が基本となりますが、高松教区報連載の「はばたき」が、引き続き地区持ち回りのコラムとして掲載されます。編集会議は、委員長の川柳神父を中心に毎月オンラインで行われています。地区広報委員の皆様には、情報提供・原稿手配等で引き続きご協力をお願いします。

2月23〜24日に青年の集い 出会い・交流・歩み出し

旧高松教区の青年と旧大阪教区の青年が、カトリック徳島教会に集まりました。四国から10名、大阪から6名の青年、他に司祭4名、シスター3名、スタッフ数名が交流しました。新教区設立の際、大阪の春名神父と四国の高山神父との間で持ち上がった話が、近いうちに集まりたいという青年達の声もあり実現したものです。

一泊二日の日程で、複雑なプログラムは立てずに、

集まって
楽しく過ごす
をコンセプトに阿波踊り会館見学や阿波踊り体験を盛り込みつつ、祈りや振り返りの時間も設け(もちろんHAPPY・HOURも忘れず)、最後は元気な歌付きのミサで締めくくりました。



四国の青年0日とお子さんも駆けつけました。

司祭異動(第一次)発表

2024年春の司祭・司牧者人事異動が発表されました。大阪高松大司教区となり、皆様と共に歩み始める第一歩となります。すでに各小教区に通知されていますが、教区ホームページ(下記QRコード)でもご覧いただけます。



「教区報点字版」お届けします

視覚障がい者への情報提供をしている「力障連大阪フレンドリー点字部」では、教区報を点訳されています。教区報点字版が必要な方は、
点字部・事務局 090・5661・4324
までご連絡ください。

はばたき

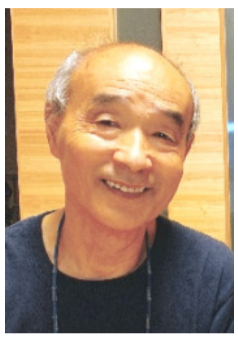
2024年2月24日、ロシアのウクライナ侵攻が3年目を迎えた。多くの兵士となった青年らが意味のない人生の終わりを遂げています。しかも、その無念の死がどれ程になったかの詳細のデータも公表されています。ウクライナの人々は国を挙げて、多くの爆弾やミサイルを求め、一方で、一日も早い戦争の終結を望んでいます。戦争の拡大を望まない欧米諸国は、後ずさりしたい気持ちにはあっても、始まった戦争の幕引きを見通せないまま、一歩一歩を慎重に進めようとしているように見えます。この戦争に嘆くうちに、イスラエルとガザ地区の戦いが始まり、子供や女性に意味のない人生の途絶を味あわせています。

また、能登半島で元旦の最も喜ばしい夕べの食卓が地震により奪われ、温かい家族の未来は失われました。その災害への支援に臨む海上保安庁の職員も無念の死を遂げました。

人は死を避けることができないと知りつつも、少なくとも意味ある死、納得の得られる死を望んでいます。我々は、マリアに取次ぎを願うとき、「今も臨終のときも...」と祈ります。しかし、ここに神はおられないのか、の慟哭があり、これに対する応えは、「主は沈黙のうちに傍におられる」と繰り返しています。

人生の最後に、魂の平安を願う祈りを捧げられなかった多くの靈魂のために、わたしたちの小さな毎日の祈りと犠牲をお捧げしたい。「永遠の安息を彼らに与え給え」
教区報西部版最終号への深い感謝とともに、一層、祈りの輪が広がりますように。

高松教区報に携わる13年



私が高松教区に赴任したのは2008年4月でした。以来、2年後に終身助祭の叙階を受け2021年までの13年間、司祭団の一員として働かせていただきました。

高松教区での勤めは教区広報、特に教区報の仕事ということでした。その紙面作りには当然パソコンが必要ですが、私はパソコンを全く扱ったことがありませんでした。しかし途方に暮れてばかりはいられません。知人のパソコンインストラクターに「一から指導してもらいました。慣れない仕事には不安も募ります。そ

新聞に近い情報紙だったので新聞社にお勤めの経験をお持ちの丸尾氏から監修を得たことが何よりの助けとなりました。一方、編集技術面での長谷川氏のご協力がなければ一歩も前に進むことは出来なかつたでしょう。

そのうちに、幼稚園運営の責任も負うことになりましたが、その傍ら、広報委員さん方と共に、記事収集、紙面作成、記事の見出し、校正等を重ねての印刷発注、各小教区等への発送作業を経て信徒の皆様のもとへ届ける一連の流れをこなす13年となりました。今号は昨年大阪高松大司

幼稚園で働くことになりました。幼稚園で働くことになりました。

幼稚園で働くことになりました。

幼稚園で働くことになりました。

◇教区スケジュール◇

- 3月
- 1日(金) 性虐待被害者のための祈りと償いの日
- 3日(日) 四旬節第3主日
- 10日(日) 四旬節第4主日
- 17日(日) 四旬節第5主日
- 19日(火) 聖ヨセフ
- 20日(水) 春分の日
- 21日(木) 大阪高松教区司教座教会献堂記念日
- 23日(土) (旧高松教区) 拡大宣教司牧評議会
- 24日(日) 受難の主日(枝の主日)
- 26日(火) 経済問題評議会
- 27日(水) 聖香油ミサ
- 28日(木) 聖木曜日(主の晩餐) 責任役員会
- 29日(金) 聖金曜日・主の受難
- 30日(土) 聖土曜日
- 31日(日) 復活の主日

退任後の諏訪司教様 ~愛媛地区~



2023年1月1日、南予着任後初めてのミサ(八幡浜)



2024年1月21日、八幡浜聖堂ミサ。座席20席を超える23名の参加者。司教様の3か国語のお説教レジュメが外国人にも理解を深めている。

諏訪司教様の南予での御活躍が、写真アルバムで届きました。(日付をランダムに並べました。)

地区・プロックの話題



2023年10月29日、宇和島教会で南予プロック合同ミサ



2023年4月9日、南予着任後初めての復活祭ミサ(八幡浜)



2023年10月29日、宇和島教会でのバロック交流会パーティー



2023年9月4日に92歳男性に病床洗礼を授け、同7-8日に通夜葬儀、16日に追悼ミサで祝福を与えた。



2023年12月24日、諏訪司教様が勉強会を行われた初聖体の児童に降誕祭ミサで聖体を授与する。背景はフィリピンから駆け付けた親族、侍者はベトナム実習生の青年たち



2023年5月28日、八幡浜信者宅でベトナム技能実習生の浴衣着付け体験と石窯ピザづくりに参加して(上下写真)



2023年6月18日、コロナ禍後八幡浜教会小聖堂で再開したミサ後の茶話会



2023年11月26日、Ngaさんが3年の技能実習を終えて2人の子供が待つベトナムへ帰国する送別会でお別れを告げる。



2023年10月8日、5年間の技能実習を終えてベトナムに帰国したMaiさんが3か月後に再来日して再び共同体に迎えた日

東讃プロック 高松番町教会 令和の改修

高松番町教会は、昭和45年(1970)4月、聖母幼稚園と一体で鉄筋コンクリート3階の構造で建てられました。経年の劣化により塗装の剥がれ、雨漏り等が見られ、平成26年(2014)にエレベーターの設置とともに、外壁・屋根の塗装リニューアル工事を行いました。(平成の大改修)。

しかし、内壁は建築後53年間で一度も補修しておらず、雨漏りの跡やひび割れが増大していること、また床のカーペットは25年前に張ったもので、色落ちや剥がれがあることから幼稚園と共同で、全面塗装、カーペットの張替の工事を計画しました。

また、祭壇中央にある聖櫃は、2段の階段の上に高さ1.4mの大理石の石柱があり、その上に設置されています(写真1)。高所にあり階段の踏代も20cmと狭いことから、ご聖体を取り出すとき、故松永神父様や聖体奉仕者は危険な思いをされていました。対策として仮設階段を作りま

したが(写真2) 暫定であり、今後奉仕者も増える予定もあることから、聖櫃台を低くして祭壇右側の聖体ランプの下側に移設する事としました(写真3)。

聖櫃台は祭壇と同じ大理石で造られて、移設には厚さ25mmの大理石板を剥がす必要があり、工事関係者は恐らく割れて使えないだろうとの見解でした。請け負った安部さん(桜町教会)も「この作業は初めてで出来れば他の方にお願いしたい」との事でした。何度も無理をお願いし、大理石が上手に取れた時「これは私に与えられた使命。天の声」と腹を決め無事移設の難工事を完成することが出来ました(安部さん写真4)。

このリフォーム工事を担当していただいたのは、番町教会、そして桜町教会の内装も施工している当教会の杉本さん(三友商事)、平成26年の屋根、外壁塗装をしていただいた坂出教会の米子さん(極東化成)、聖櫃

移設が安部さんです。幼稚園の関係で作業によっては土日のみの制限があったこと、音楽会等の行事があり2月中旬が工期であることなど、厳しい条件の中で三社が連携して予定通り無事竣工することができました(写真5)。

工事の期間は1階の会議室を模様替えし、仮聖堂としてミサを行いました。約30名が集いお隣と触れる狭い状態でしたが良い雰囲気、きつと建物のない初代の教会もこのような状態で、神父様の「これからもここでミサをしましょうか」の冗談に皆さんも「いいかも」(笑)の状況でした。

番町教会は一昨年創立百周年を迎え、担当司祭の松永神父様が急逝する悲しい出来事がありました。新たな歩みを進めています。

松永神父様の遺産(松永記念助成金)により新たに建てた聖堂を、番町教会の家族的な雰囲気と共に、次代の人達に伝え残していかなければと思います。

